

# 国語科 学 習 指 導 案

指導者 広島市立〇〇小学校  
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 令和2年〇月〇日(〇)～ 令和2年〇月〇日(〇)

2 学年・学級 第4学年〇組(〇名)

### 3 指導事項

- (1) 言葉の特徴や使い方 カ  
主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
- (2) 読むこと ウ  
目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

4 単元名 「世界にほこる和紙」

### 5 言語活動

- ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
  - 和紙の魅力について、6年生に伝える紹介文を書こう

### 6 単元の評価規準とめざす児童の具体的な姿

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)	○ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C1)ウ)	○ 進んで、接続する語句や段落の役割について理解したり、学習の見通しをもって、目的を意識し、中心となる語や文を見付けたりして、要約しようとしている。
○ 「世界にほこる和紙」の本文から、接続する語句や段落の役割を理解して、意味段落に分けている。	○ 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、中心となる語や文を見付けながら読み、短い文に表している。	○ 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という学習の見通しをもって、接続する語句や段落の役割について理解した上で、目的を意識し、中心となる語や文を見付けながら読み、紹介文を書こうとしている。

### 7 単元に関して

- 児童の状況 (略)
- 教材の価値
  - ・ 教材文「世界にほこる和紙」：本単元は、「C読むこと」の指導事項ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。」に基づいて設定されている。教材文「世界にほこる和紙」は、和紙について、破れにくく長持ちする「和紙のよさ」と、気持ちを表す方法として使う「和紙の使い方」について具体例を述べ、分かりやすく説明している。そのため、和紙の魅力を伝えることを目的として、中心となる語や文を見付けることに適している。また、「まず」「もう一つ」「このように」という接続する語句によって、文章全体の構成も捉えやすい。そのため、「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を見付けやすい教材である。
  - ・ 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(和紙の魅力について、6年生に伝える紹介文を書く)：本単元では、「和紙の魅力について、6年生に伝える紹介文を書く」という言語活動を設定する。6年生は、国語科「日本文化を発信しよう」の学習や社会科の歴史の学習を既習している。このことを関連付けて言語活動を設定することによって、児童が、目的を意識して、進んで文章の中から中心となる語や文を見付けようとする意欲を高めることができる。

○ 指導の工夫

- 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。：指導に当たっては、まず、既習の「思いやりのデザイン」を振り返らせ、どのような接続する語句が使われていたか、また、その語句はどのように使われていたかを確かめさせる。その上で、本教材で使われている「まず」「もう一つ」「このように」という接続する語句に気付かせ、これらの接続する語句自体の意味やその役割について考えさせる。このことで、接続する語句に着目して、「初め」「中」「終わり」という文章全体の構成を捉えられるようにする。
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。：目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができるように、段階的な学習過程を取り入れた指導を行う（図1）。なお、今回、「中心となる語や文」と「必要な情報」は同義と捉え、指導を行う。

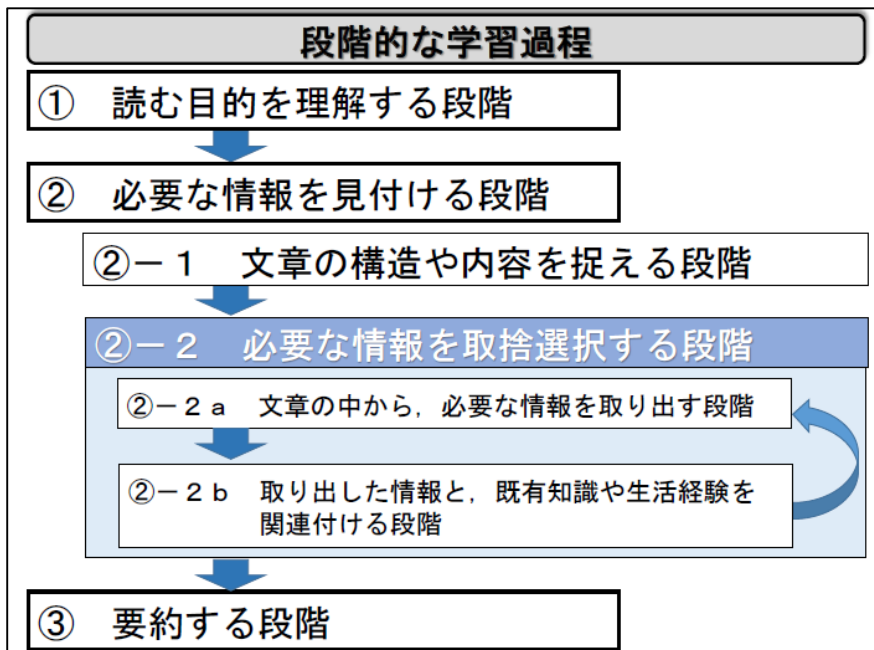
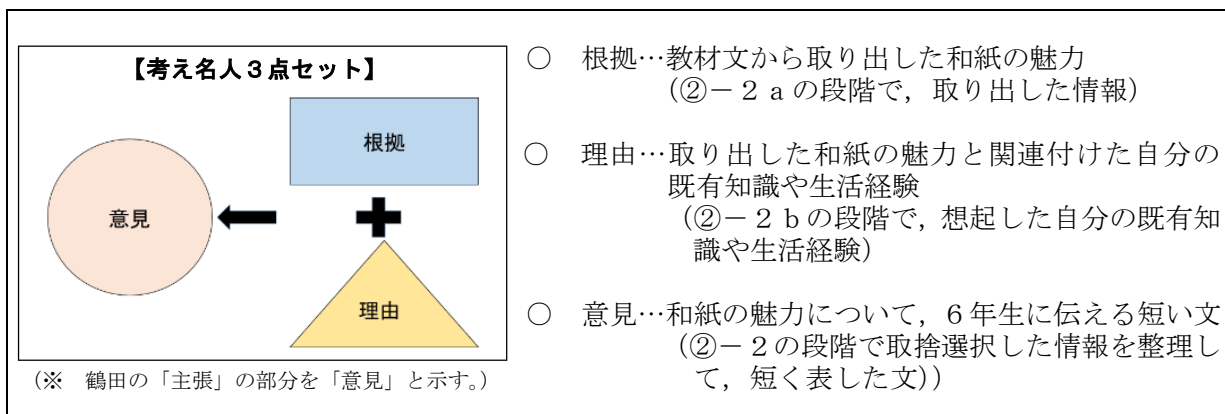


図1 段階的な学習過程

また、③の段階の表現活動では、鶴田（2017）の「根拠・理由・主張の3点セット」を一部取り入れる。その際、児童が抵抗感なく学習に取り組むことができるように、名称を「考え名人3点セット」とし、児童には以下のように示す。



これをワークシートに取り入れて指導を行う。ワークシートは、図1の段階的な学習過程における、児童の思考を視覚化できるように、一枚にまとめる（次頁図2）。このワークシートを、第3時から第7時において、繰り返し活用する。

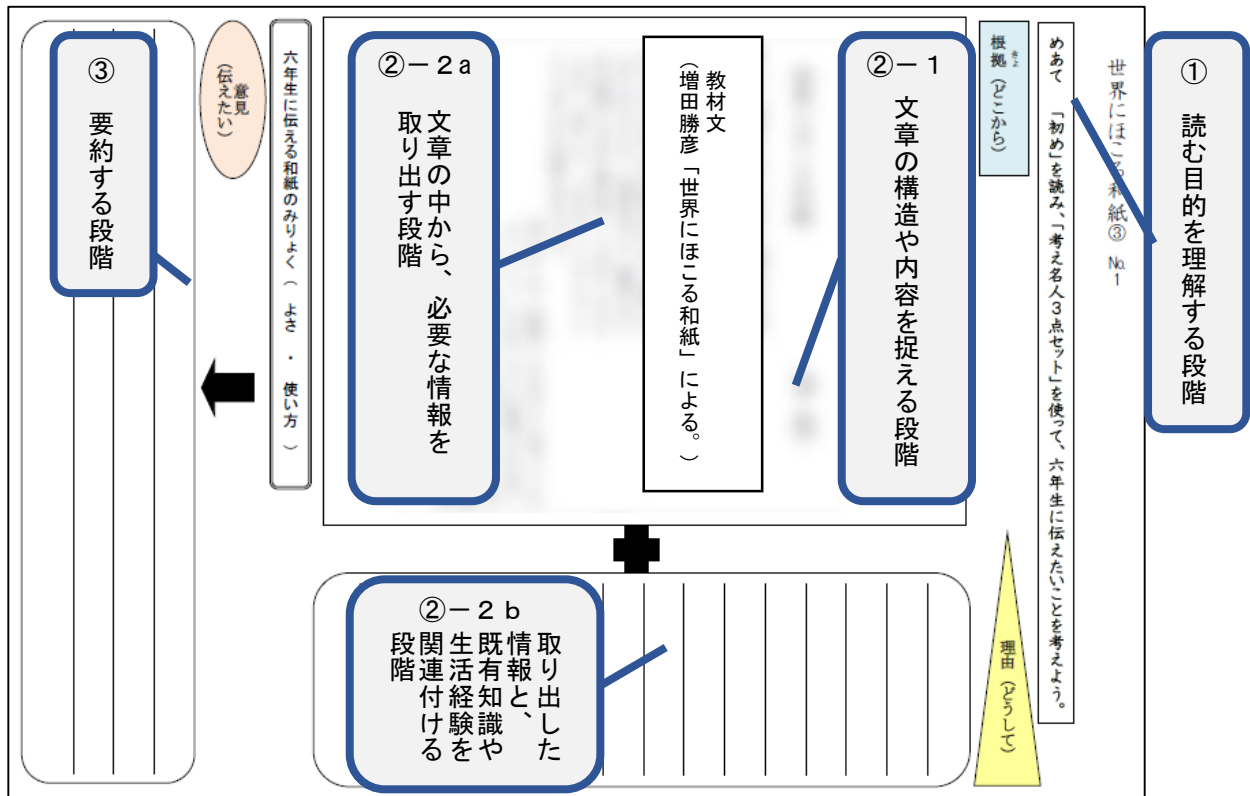


図2 「考え名人3点セット」を取り入れたワークシート

各段階のねらいと指導上の留意点は、以下のとおりである。

### ① 読む目的を理解する段階

「必要な情報を見付ける力」の育成のためには、目的を明確にして読むことが大切であるため、①の段階を位置付けた。

この段階では、まず、第1時に、「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を、以下に示す「伝えるポイント」として、全体で共通認識させる。これを、毎時間の冒頭部分で示して確認させることで、読む目的を理解し、目的を意識して学習に取り組むことができるようにする。

#### 【伝えるポイント】

- 6年生に伝える。
- 和紙のみりよく
  - ・ よさ (洋紙とくらべて)
  - ・ 使い方 (いつから・何に・どのように)

### ② 必要な情報を見付ける段階

#### ②-1 文章の構造と内容を捉える段階

文章の構造や内容を的確に捉え、それを基に、必要な情報を見付けることができるように、②-1の段階を位置付けた。

この段階では、まず、個人で文章から読み取ったことを、印を付けさせたり、キーワードで表現させたりする。このことで、文章の構造や内容を捉えることができているか、自覚できるようにする。その際、筆者が述べたいこと(和紙の「よさ」「使い方」)を、全体で確認する場を設ける。

#### ②-2 必要な情報を取捨選択する段階

「必要な情報を見付ける力」の育成のためには、自分の知識や経験などと関連付けながら読む際の一連の思考を、意図的に言語化し、顕在化することが大切である。そのため、②-2の段階を、「②-2a 文章の中から必要な情報を取り出す段階」と「②-2b 取り出した情報と既有知識や生活経験を関連付ける段階」に分け、これらの段階を往還させる。

#### ②-2a 文章の中から、必要な情報を取り出す段階

②-1の段階で捉えた構造や内容を基に、目的と照らし合わせて必要な情報を見付けることができるように、②-2aの段階を位置付けた。

この段階では、上記の「伝えるポイント」の掲示を示して、和紙の魅力のうち、「よさ」または「使い方」のどちらの情報を取り出すのかを、全体で確認させる。このことで、必要な情報を焦点化させ、取捨選択できるようにする。

**②-2 b 取り出した情報と、既有知識や生活経験を関連付ける段階**

②-2 a の段階で取り出した情報と、自分の既有知識や生活経験を関連付けたことを言語化し、文章の内容を自分のこととして実感的に理解した上で、再度、必要な情報を取捨選択することができるように、②-2 b の段階を位置付けた。

この段階では、和紙の実物を提示したり、取り出した情報と、既有知識や生活経験を関連付けさせる発問の工夫を行ったりする。このことで、取り出した情報と、既有知識や生活経験を関連付けたことを言語化し、その後、再度文章に立ち返り、情報を取り出すことができるようにする。

**③ 要約する段階**

②-2 の段階で取捨選択した情報を整理し、短い文に表すことができるように、③の段階を位置付けた。

この段階では、「意見」として、「和紙の魅力について、6年生に伝える短い文」を記述させる。

**8 単元学習と評価の計画（全9時間）**

次	時	学 習 活 動	評価規準・評価方法
一	1	「世界にほこる和紙」を読み、和紙の魅力について、6年生に紹介することを知り、学習の見通しをもつ。	[主体的に学習に取り組む態度] 観察・発言・ワークシート ・ 和紙の魅力について、6年生に伝えたいことを書いたり話し合ったりしている様子の確認
二	2	全文を読み、大まかな内容を捉える。段落を確かめ、文章全体の構成を捉える。	[知識・技能] ワークシート ・ 形式段落や意味段落の記述の確認
	3	「始め」の中心となる語や文を見つけて、短い文に表す。	
	4	「中[1]」の中心となる語や文を見つけて、短い文に表す。	
	5	「中[2]」の中心となる語や文を見つけて、短い文に表す。	
	6	「終わり」の中心となる語や文を見つけて、短い文に表す。	
三	7	文章全体の中心となる語や文を見つけて、短い文に表す。	[思考・判断・表現] ワークシート ・ ワークシートの記述の確認
	8	和紙の魅力について、6年生に伝える紹介文を書く。	[思考・判断・表現] ワークシート ・ 和紙の魅力について、6年生に伝える紹介文の記述の確認
	9	書いた紹介文を6年生に伝える。学習を通して学んだことを振り返る。	[主体的に学習に取り組む態度] ワークシート・発表 ・ 和紙の魅力について、6年生に伝えている様子の確認

〈第1時〉

(1) 本時の目標

- 和紙に関心をもつとともに、「和紙の魅力について、6年生に伝える」という学習の見通しをもつことができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
主体的に学習に取り組む態度	和紙に関心をもつとともに、「和紙の魅力について、6年生に伝える」という学習の見通しをもっている。	和紙の魅力について、6年生の和紙に関わる学習状況や教科書に書かれている内容を踏まえながら、6年生に伝えたいことを書いている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
<p>1 和紙について、知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビで観たことがあるよ。</li> <li>・ 文房具売り場で見たことがあるよ。</li> <li>・ 昔から日本にあるものだと思う。</li> <li>・ 伝統工芸品の一つだと聞いたことがあるよ。</li> </ul> <p>2 「世界にほこる和紙」を読む目的を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 和紙に関する既存知識を振り返らせたり、和紙の実物を見せたりすることで、和紙について関心をもつことができるようにする。</li> <li>○ 読む目的を明確にさせるために、和紙の魅力について、6年生に伝えることを説明する。その際に、なぜ6年生に伝えるのかもあわせて説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【6年生の和紙に関わる学習状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の歴史で学習した、正倉院の文書や平安時代の和紙などに和紙が使われている。</li> <li>・ 国語の「日本の文化を伝えよう」で、和紙と同じように昔から日本にあるものについて学習している。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生が学習した和紙に関わる資料のイメージをもつことができるように、ICT機器を活用して、その資料を提示する。</li> </ul>	
<p>3 本時のめあてを知る。</p>		
<p>和紙のみりよくについて、6年生に伝えたいことを考えよう。</p>		

<p>4 和紙の魅力について、6年生に伝えたいことを考える。 (個人→ペア→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6年生が初めて知ること</li> <li>・ 6年生の学習と関係があること</li> <li>・ 和紙の材料</li> <li>・ 和紙の種類</li> <li>・ 和紙はいつから使われているのか</li> <li>・ 和紙は何に使われているのか</li> <li>・ 和紙はどのようなときに使うのか</li> <li>・ 和紙のよさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生の和紙に関わる学習状況を基に、6年生に伝えたいことを考えさせるために、学習活動2で提示した資料を再度示し、確認させる。</li> <li>C： これまでのスピーチの学習で、相手に伝える際には、相手が聞きたいことについて伝えたことを確認させる。</li> <li>○ クラス全体で考えを共有するために、ペアや全体での交流の場を設ける。</li> </ul>	
<p>5 「世界にほこる和紙」を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的をもって読むことができるよう、学習過程4で、自分がワークシートに書いた「6年生に伝えたいこと」が、教材文に書かれているかという視点で読ませる。</li> <li>C： 読む目的を明確にさせるために、「和紙の使い方」を読む視点として示す。</li> <li>○ 再度、6年生に伝えたいことを個人思考させるために、自分の考えに合う語や文に印を付けさせたり、新たに付け加えさせたりする。</li> </ul>	<p>A： 和紙の魅力について、6年生の和紙に関わる学習状況や教科書に書かれている内容を踏まえながら、6年生に伝えたいことを三つ以上書いている。</p> <p>B： 和紙の魅力について、6年生の和紙に関わる学習状況や教科書に書かれている内容を踏まえながら、6年生に伝えたいことを書いている。 (ワークシート)</p>
<p>6 6年生に伝える和紙の魅力を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 和紙の魅力について、教材文に書かれている情報を共通認識させるために、全体交流の場を設ける。</li> <li>○ 伝えたいことをより焦点化させるために、和紙の魅力について、「よさ」と「使い方」に整理し、確認させる。</li> </ul>	
<p>7 学習の振り返りをし、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習で思ったことや考えたことを表現し、自覚することができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習を振り返らせる。</li> </ul>	

学習過程の「3 本時のめあてを知る。」の後で、めあてを書く。

世界にほこる和紙①

めあて

和紙のみりよくについて、六年生に伝えたいことを考えよう。

○ 和紙について知っていること

- ・ テレビでみたことがある
- ・ 文房具売り場で見たことがある
- ・ 昔から日本にあるもの
- ・ 伝統工芸品の一つ

和紙

和紙

和紙のみりよくについて、六年生に伝えよう。

○ 和紙のみりよくを六年生に伝える理由

- ・ 社会の歴史で習っている
- ・ 国語で日本の文化について勉強している

○ 六年生に、どのようなことを伝えたい？

- ・ 六年生が初めて知ること
- ・ 六年生の学習と関係があること
- ・ 和紙の材料
- ・ 和紙の種類
- ・ 和紙はいつから使われているのか
- ・ 和紙はどのようなときに使うのか
- ・ 和紙は何に使われているのか
- ・ 和紙のよさ

まとめ

(1) ①六年生に和紙のみりよくを伝える

(2)

みりよく

よさ

使い方

(洋紙とくらべて)

(いつから使われているのか  
どのようなときに使うのか  
何に使われているのか)

を伝える

〈第2時〉

(1) 本時の目標

- 接続する語句や段落の役割について理解して、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分けることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
知識・技能	接続する語句や段落の役割について理解して、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分けている。	「世界にほこる和紙」を読んで大まかな内容を捉え、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分けたり、「中」を二つに分けたりしている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、前時の学習で考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【伝えるポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 6年生に伝える。</li> <li>② みりよく               <ul style="list-style-type: none"> <li>よさ (洋紙と比べて)</li> <li>使い方 (いつから、何に、どのように)</li> </ul> </li> </ul> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの説明的な文章の学習では、どのように学習を進めていたのかを確認するために、文章全体の構成を捉えた上で、内容の読み取りを行うという学習手順を想起させる。</li> </ul>	
<p>「世界にほこる和紙」を読んで、「初め」「中」「終わり」に分けよう。</p>		
3 既習の「思いやりのデザイン」(4年上)で学習したことを確認する。 (1) 接続する語句の意味や使い方について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いっぽう」は、二つのうち、一つ目のことを説明した後、二つ目のことについて説明するときに使われていた。だから、「中」にあたる。</li> <li>・ 「このように」は、それまでの話をまとめるときに使われていた。だから、「終わり」にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT機器(PC)を活用して、既習の「思いやりのデザイン」を提示することで、文章全体の構成「初め」「中」「終わり」を確認させる。</li> <li>○ 「世界にほこる和紙」を読む際に、接続する語句に気付かせるとともに、それを基に、文章の内容をより理解することができるよう、「思いやりのデザイン」で使われていた接続語「いっぽう」「このように」の意味や役割を確認させる。</li> </ul>	



<p>(2) 「初め」「中」「終わり」に書かれていることの要点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「初め」には、話題と筆者の考えが書かれていた。</li> <li>・ 「中」には、案内図について詳しく書かれていた。</li> <li>・ 「終わり」には、筆者の考えが書かれていた。</li> </ul> <p>4 全文を読む。</p> <p>5 「初め」「中」「終わり」の分け方と、それぞれに書かれていることの要点を考える。</p> <p>(1) 「初め」「中」「終わり」に分ける。 (個人→ペア→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1段落は和紙のことが話題として書かれているから「初め」だと思う。</li> <li>・ 第3段落の初めに「まず」と書いてあって、「まず」は具体例を説明し始める時に使う言葉だから、第3段落から「中」だと思う。</li> <li>・ 「中」の終わりは、第9段落だと思う。それは、第9段落までが和紙の魅力について詳しく書かれているから。</li> <li>・ 第10段落の初めに「このように」と書いてあって、「このように」は、筆者の考えがまとめられている時に使われる言葉だから、第10段落はまとめの部分で、「終わり」だと思う。</li> </ul>	<p>○ 「思いやりのデザイン」で既習した「初め」「中」「終わり」に書かれていることの要点を確認させることで、「世界にほこる和紙」の「初め」「中」「終わり」に書かれていることの要点を考えさせるための見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 「初め」「中」「終わり」の分け方や、それぞれに書かれていることを考えながら読むことができるよう、教材文の接続語やキーワードに印を付けさせる。</p> <p><b>個人</b></p> <p>○ 自分の考えをもつことができるように、まず、教材文に、「初め」「中」「終わり」をどのように分けるか書かせる。その上で、ワークシートの表に、「初め」「中」「終わり」の分け方をまとめさせる。</p> <p>C： 「まず」「もう一つ」「このように」という接続語に気付くことができるように、「思いやりのデザイン」で使われていた接続語を確認し、「世界にほこる和紙」にも同じ接続語がないか見付けさせる。</p> <p><b>ペア</b></p> <p>○ 一人一人が自分の考えを明確にしたり、他の視点をもったりすることができるように、ペア活動の場を設定する。</p> <p>○ 文章中の語や文に着目し、内容を理解した上で、「初め」「中」「終わり」の分け方の理由を共有するために、どのように段落を分けたのか、段落番号だけでなく、その理由も説明させる。</p>	
--	---	--

<p>(2) 全文に書かれていることの内容を確認する。 (全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「初め」には、和紙のことが話題として書かれている。</li> <li>・ 「初め」には、筆者の考えも書いてある。</li> <li>・ 「中」には、和紙の魅力が詳しく書いてある。</li> <li>・ 「終わり」には、筆者の考えが書いてある。</li> </ul> <p>(3) 「中」を内容のまとまりで分ける。 (個人→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3段落の初めに「まず」と書いてあるから、第3段落から一つ目の魅力が書かれていると思う。</li> <li>・ 第6段落の初めに「このような」と書いてあるから、第5段落と第6段落はつながると思う。</li> <li>・ 第7段落の初めに「もう一つ」と書いてあるから、第7段落から二つ目の魅力が書かれていると思う。</li> </ul>	<p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体交流の際、発表する児童が着目した接続語や内容を全体で共有するために、ICT機器（実物投影機）を活用して、教材文を提示し、該当箇所を全体で確認させる。</li> <li>○ ワークシートに、友達の考えを書いたり、自分の考えを修正したりする際に、自分の考えの変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。</li> <li>○ 要点を考えることができるようにするために、学習活動3(2)の板書を基に、内容構成が同じであることに気付かせる。</li> </ul> <p><b>個人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「中」の分け方について考えることができるようにするため、まず、「中」の段落番号を書き、その後、内容のまとまりで段落を分けさせる。その際に、なぜそのように分けたのか、理由を接続語やキーワードを基に記述させる。</li> <li>C： 学習活動5(1)において、接続語の意味や役割を確かめて分けていたことを振り返ることで、「中」の段落においても同様に分けさせる。</li> </ul> <p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに、友達の考えを書いたり、自分の考えを修正したりする際に、自分の考えの変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。</li> </ul>	<p>A： 「世界にほこる和紙」を読んで大まかな内容を捉え、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分けたり、「中」を二つに分けたりしている。その際に、「中」をどのように二つに分けるのか、理由も書くことができている。</p> <p>B： 「世界にほこる和紙」を読んで大まかな内容を捉え、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分けたり、「中」を二つに分けたりしている。 (ワークシート)</p>
---	---	---

<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返るために、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを発表させる。</li> <li>○ 次時の学習を確かめさせるために、単元計画表を黒板横に示す。</li> </ul>	
---------------------------------	--	--

世界にほこる和紙②

めあて

「世界にほこる和紙」を読んで、「初め」「中」「終わり」に分けよう。

○ 「思いやりのデザイン」の学習を思い出そう。

・ 初め……話題・筆者の考え

・ 中……案内図（具体例）

・ 終わり……筆者の考え

いっぽう  
このように

○ 「世界にほこる和紙」を、「初め」「中」「終わり」に分けて表にまとめよう。

終わり	中	初め	段落番号
⑩	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	① ②	書かれていること
筆者の考え	和紙のみりよく	話題、筆者の考え	

- ①には話題として和紙のことが書かれている。
- ②には筆者の考えが書いてある。
- ③から具体例が書かれている。
- ④まで和紙のみりよくが書かれている。
- ⑩は筆者の考えがまとめられている。

○ さらに「中」を分けよう。

- ③の初めは「まず」と書いてあるから、③から一つ目のみりよくについて書かれている。
- ⑥の初めが「このような和紙のとくちよう」だから、⑤と⑥はつながる。
- ⑦の初めは「もう一つ」だから、⑦から二つ目のみりよくが書かれている。

まとめ

「初め」「中」「終わり」に分けて、

- ・ 「初め」には、話題や筆者の考えが書いてある
- ・ 「中」に、和紙のみりよくがくわしく書いてある
- ・ 「終わり」には、筆者の考えが書いてある

ということが分かった。

児童の言葉を引き出し、それをまとめの言葉とする。

ワークシートを拡大したものを貼る。

〈黒板横〉

毎時間の冒頭部分で確かめさせる。

☆ 和紙のみりよくについて、六年生に伝えよう。

伝えるポイント

① 六年生に伝える

② みりよく

下目 (洋紙のデザイン)

使い方 (くじから)

回り (このまわり)

〈単元計画図〉

世界にほこる和紙

① 六年生に伝えたい和紙のみりよくについて考える。

② 「世界にほこる和紙」を読んで、「初め」「中」「終わり」に分ける。

③ 「初め」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

④ 「中」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑤ 「中」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑥ 「終わり」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑦ 「世界にほこる和紙」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑧ しょうかい文を書く。

⑨ 書いたしょうかい文を、六年生に学習のふり返りをする。

〈テレビ〉

「思いやりのデザイン」「世界にほこる和紙」の文章を提示する。

次時の学習を  
確認する場  
面  
で提示する。

〈第3時〉

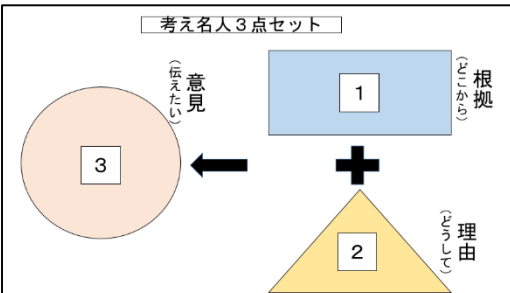
(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「初め」の中心となる語や文を見付けることができる。

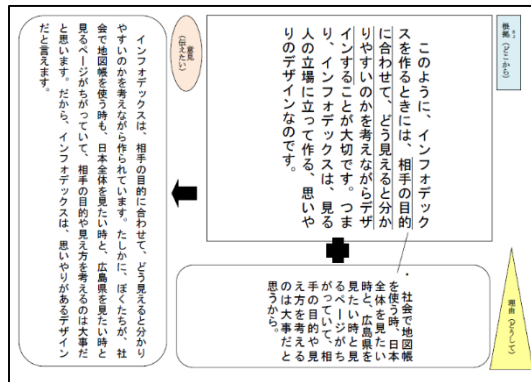
(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「初め」の中心となる語や文を見付けることができる。	「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力（よさ）について、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、書いている。

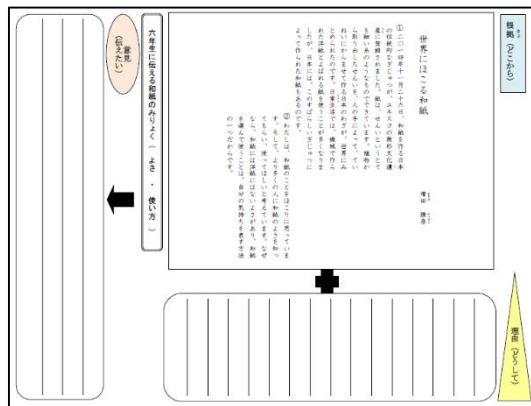
(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、第1時に考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【伝えるポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 6年生に伝える。</li> <li>② みりよく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ</span> (洋紙と比べて)</li> <li style="margin-left: 20px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">使い方</span> (いつから、何に、どのように)</li> </ul> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を示し、本時の学習について確認させる。</li> </ul>	
<p>「初め」を読み、「考え名人3点セット」を使って、6年生に伝えたいことを考えよう。</p>		
3 「考え名人3点セット」について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「考え名人3点セット」とは何かを知るために、ICT機器（PC）を活用し、次の①～③の順に図を示して説明する。</li> <li>① 「根拠（どこから）」「理由（どうして）」「意見（伝えたい）」の関係や意味を理解することができるように、色分けした図を、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>～<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>の順に一つずつ提示する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>～<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>は思考する順序</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">□ 考え名人3点セット</p>  </div>	

② 既習の「思いやりのデザイン」を「考え名人3点セット」に当てはめて表すことで、使い方を理解できるようにする。



③ 「世界にほこる和紙」が「考え名人3点セット」に当てはめるとどうなるのかを知るために、ICT機器を活用して示す。



4 「世界にほこる和紙」の「初め」を読む。

(1) 教師の範読を聞く。

- 自力で音読ができるようにするため、読めない漢字には印を付けさせる。
- 文章中の語や文について、理解できているかを自覚することができるように、語や文の理解が曖昧な箇所に印を付けさせる。

(2) 個人で音読する。

- 「初め」の内容の大体を捉えることができるように、個人で音読させる。

5 「初め」に書かれている内容を読み取る。

(1) 分からない語や文について、確認する。

- ・ 伝統的
- ・ ユネスコ無形文化遺産
- ・ 洋紙
- ・ せんい

- 語や文を理解することができるように、学習過程4(1)で印を付けた語や文を挙げさせ、それについて、説明することができる児童に発表させたり、教師が補足したりする。

- ・ ほこり（誇り）
- ・ 植物からせんいを取り出す

(2) 「初め」に書かれている内容を確認する。

(個人→全体)

**第1段落**

- ・ 日本のわざが世界にみとめられた
- ・ 和紙がユネスコ無形文化遺産に登録された
- ・ 和紙は人の手、洋紙はきかいで作られている

**第2段落**

- ・ 筆者の考えが書かれている  
(ほこりに思っている、より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい)
- ・ 和紙には洋紙にはないよさがある
- ・ 自分の気持ちを表せる

(3) 内容を「よさ」と「使い方」に分ける。

(個人→全体)

**使い方**

- ・ 和紙を選んで使うことは、自分の気持ちを表す方法の一つ

**個人**

- 内容を理解することができるか自覚するために、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で表現させる。

**全体**

- 「初め」に書かれている内容を共有するために、全体交流の場を設ける。

**個人**

- 「よさ」と「使い方」を視覚的に分かるように、「よさ」に関する内容には本文に直線、「使い方」に関する内容には波線を引かせる。

**全体**

- 友達の見解を聞いて、自分の意見と比較することができるように、全体交流をさせる。
- 学習過程6で、6年生に伝える和紙の魅力を「よさ」に焦点化して考えることができるように、この場面では、「使い方」のみ全体で確認させる。
- 「使い方」について、友達のことを書いたり、自分の考えを修正したりする際に、自分の考えの変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。

6 6年生に伝えたい和紙の魅力（よさ）について、「考え名人3点セット」を使って、「根拠」「理由」「意見」を考える。  
 (1) 「根拠」を考える。  
 (個人→全体)

**よさ**

- ・ 和紙を作る日本伝統的なぎじゅつが、ユネスコの無形文化遺産に登録された
- ・ 植物から取り出したせんいを、人の手によって、ていねいからませて作る日本のわざが、世界にみとめられた
- ・ 和紙には洋紙にはないよさがある

(2) (1)の「根拠」と、自分の知っていることや経験したことを結び付け、和紙のよさの「理由」を考える。  
 (全体)

- ・ 和紙は普段使っているノート（洋紙）と違って、触り心地がふわふわしていて、確かに和紙には洋紙にはないよさがあると思うから。
- ・ 人の手によって作られている布を見たことがあって、細かい作業がすごいなあと思った。だから、和紙を作るわざもすごいと思うから。
- ・ ユネスコ無形文化遺産に登録されるのは、数が多くないと聞いたことがある。だから、和紙はすばらしいものだと思うから。

**個人**

- 文章中から、「よさ」について書かれている箇所を見付けることができるように、学習過程1で確認した「伝えるポイント」を基に、「よさ」とは「洋紙と比べたよさ」であることを確認させる。
- 本文中に書かれている「よさ」が視覚的に分かるように、「よさ」に関する内容には、直線を引かせる。

**全体**

- クラス全体で考えを共有するために、全体交流をさせる。
- 「よさ」について、友達の考えをワークシートに書いたり、自分の考えを修正したりする際には、自分の考えの変容を振り返ることができるように、赤鉛筆で加筆させる。
- 文章に書かれている内容を、自分のこととして実感的に理解するために、根拠を基に、自分の既有知識や生活経験と結び付けて考えさせる。



<p>(3) 「考え名人3点セット」の「意見」を考える。  (全体→個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和紙のよさは、人の手によって、ていねいに作られているという洋紙にはないよさがあることです。</li> <li>和紙のよさは、人の手によって、ていねいに作られ、ユネスコ無形文化遺産に登録されていることです。</li> </ul>	<p><b>全体</b></p> <p>○ 友達の意見を聞いて、全員が自分の考えをもったり、自分の考えを友達と比較し、深めたりすることができるように、ワークシートに記述した「意見」を発表させる。</p> <p><b>個人</b></p> <p>○ 自分の考えを明確にするために、全体交流での友達の意見を参考にしたり、自分自身が6年生に伝えたいと思ったりしたことをワークシートに記述させる。</p> <p>C： 自分の考えをもつために、全体交流での友達の意見の中で、自分の考えと似ているものを選ばせ、その文を参考にさせる。</p>	<p>A： 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力(よさ)について、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、書いている。さらに、「理由」に書いた自分の解釈を取り入れながら、「意見」を書いている。</p> <p>B： 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力(よさ)について、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、書いている。  (ワークシート)</p>
<p>7 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<p>○ 本時の学習を振り返ることができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを発表させる。</p> <p>○ 次時の学習を確かめることができるように、単元計画表を示す。</p>	

世界にほこる和紙③

めあて

「初め」を読み、「考え名人3点セット」を使って、  
六年生に伝えたいことを考えよう。

何について考えているかを、児童が確認しやすいように、板書とワークシート  
の形式を統一する。

考え名人3点セット

根拠(どこから)

教科書の「初め」を  
拡大したものを黒  
板に貼る。  
余白部分に、文章  
から読み取ったこ  
とを、キーワード  
や短い文などで書  
き表させる。  
児童が選んだ語や  
文に線を引かせ  
る。「よさ」は直  
線、「使い方」は波  
線

理由(どうして)

和紙は普段使つて  
いるノート(洋紙)  
と違って、触り心地  
がふわふわしてい  
て、確かに和紙には  
洋紙にはないよさ  
があると思うから。  
人の手によって作  
られている布を見た  
ことがあって、細か  
い作業がすごいなあ  
と思った。だから、  
和紙を作るわざもす  
ごいと思うから。  
ユネスコ無形文化  
遺産に登録されるの  
は、数が多いと  
聞いたことがある。  
だから、和紙はすば  
らしいものだと思  
うから。

意見  
(伝えたい)

六年生に伝えたい和紙のよさは、

- 人の手によって、ていねいに作られるという洋紙にはないよさがあること
- 人の手によって、ていねいに作られ、ユネスコ無形文化遺産に登録されていること。

〈黑板横〉

毎時間の冒頭部分  
で確かめさせる。

☆ 和紙のみりよくについて、  
六年生に伝えよう。

伝えるポイント

① 六年生に伝える

② みりよく

よさ (洋紙と比べて)

使い方 (どこから  
のよさか)

〈単元計画図〉

世界にほこる和紙

① 六年生に伝えたい和紙の  
みりよくについて考える。

② 「世界にほこる和紙」を読んで、  
「初め」「中」「終わり」に分ける。

③ 「初め」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

④ 「中」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

⑤ 「中」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

⑥ 「終わり」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

⑦ 「世界にほこる和紙」を読んで、  
六年生に伝えたいことを考える。

⑧ しょうかい文を書く。

⑨ 書いたしょうかい文を、六年生に  
学習のふり返りをする。

〈テレビ〉

「学習過程  
3で児童に  
提示する  
図」を提示  
(参考資料  
参照)

学習過程3  
で、「考え名  
人3点セッ  
ト」とは何  
かを知るた  
めに、①示  
す。③の順に示

〈第4時〉

(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「中1」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「中1」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。	「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、和紙のよさについて、書いている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、第1時に考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【伝えるポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 6年生に伝える。</li> <li>② みりょく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ</span> (洋紙と比べて)</li> <li style="padding-left: 20px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">使い方</span> (いつから、何に、どのように)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「考え名人3点セット」の「根拠(どこから)」「理由(どうして)」「意見(伝えたい)」の関係や意味を想起できるように、色分けした図を、1～3の順に一つずつ提示し、確認させる。(1～3は思考する順序)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>考え名人3点セット</p> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を示し、本時の学習の位置付けやめあてについて確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>「中1」を読み、「考え名人3点セット」を使って、6年生に伝えたいことを考えよう。</p> </div>	
3 「世界にほこる和紙」の「中1」を読む。		

<p>(1) 教師の範読を聞く。</p> <p>(2) 個人で音読する。</p> <p>4 「中1」に書かれている内容を読み取る。</p> <p>(1) 分からない語や文について、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成分</li> <li>・ 正倉院</li> <li>・ 文書</li> <li>・ 修復</li> <li>・ いたむ (傷む)</li> <li>・ 保管</li> </ul> <p>(2) 「中1」に書かれている内容を確認する。 (個人→全体)</p> <p><b>第3段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和紙の特徴は、洋紙とくらべてやぶれにくいことと、長持ちすること</li> </ul> <p><b>第4段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和紙の繊維は洋紙よりとても長い。だから、やぶれにくい。</li> </ul> <p><b>第5段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和紙は、洋紙ほど高い温度にせず、薬品もあまり使わずに作られている。だから、長持ちする。</li> </ul> <p><b>第6段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和紙のよさを実感できる事例 (正倉院の文書, 世界の博物館や美術館などでの絵画や手紙の修復)</li> </ul> <p>5 6年生に伝えたい和紙の魅力 (よさ) について、「考え名人3点セット」を使って、「根拠」「理由」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自力で音読ができるようにするため、読めない漢字に印を付けさせる。</li> <li>○ 文章中の語や文について、理解できているかを自覚できるように、語や文の理解が曖昧な箇所に印を付けさせる。</li> <li>○ 「中1」の内容の大体を捉えることができるように、個人で音読させる。</li> <li>○ 語や文を理解することができるように、学習過程3(1)で印を付けた語や文を挙げさせ、それについて、説明することができる児童に発表させたり、教師が補足したりする。</li> </ul> <p><b>個人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容を理解することができるか自覚するために、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で表現させる。</li> </ul> <p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「中1」に書かれている内容を正確に理解することができるように、全体で確認させる。</li> <li>○ 6年生に伝える和紙の魅力を「よさ」に焦点化して考えることができるように、「中1」には、「よさ」が書かれていることを確認させる。</li> </ul>	
---	---	--

「意見」を考える。

(1) 「根拠」を考える。

(個人→全体)

- ・ 洋紙とくらべて、やぶれにくく、長持ちする。
- ・ 洋紙と和紙を比べると、和紙はとても長いせんいでできている。そのため、和紙は、洋紙よりもやぶれにくい。
- ・ 和紙を作るときには、洋紙ほど高い温度にすることはなく、薬品もあまり使わない。時間がたっても紙の成分が変化しにくく、その結果、長持ちする。

(2) (1)の「根拠」と、自分の知っていることを結び付け、和紙のよさの「理由」を考える。

(全体)

- ・ おばあちゃんの家の障子の紙は、和紙でできていると聞いた。確かに、障子の紙は長もちして滅多に交換しないから、和紙は長持ちすると思うから。
- ・ 和紙でちぎり絵をしたとき、洋紙よりもやぶれにくいと感じた。だから、和紙はやぶれにくいと思うから。
- ・ 布は、繊維の違いで、ポロシャツみたいに伸びやすかったり、基準服みたいに伸びにくかったりして、特徴が違う。だから、紙も繊維の違いで特徴が違うと思うから。

(3) 「意見」を考える。

(個人→全体→個人)

- ・ 和紙のよさは、洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちすることです。それは、和紙は

**個人**

- 文章中から、「よさ」について書かれている箇所を見付けることができるように、学習過程1で確認した「伝えるポイント」を基に、「よさ」とは、「洋紙と比べたよさ」であることを確認させる。
- 本文中に書かれている「よさ」が視覚的に分かるように、「よさ」に関する内容には直線を引かせる。

**全体**

- 自分の考えを振り返ったり、新たな視点をもったりすることができるよう、全体交流をさせ、クラス全体で考えを共有する。
- 友達の考えを書いたり、自分の考えを修正したりする際には、自分の考えの変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。
- 文章に書かれている内容を、自分のこととして実感的に理解するために、根拠を基に、自分の既有知識と生活経験と結び付けて考えさせる。

**個人**

- 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙のよさについて、伝えたいことを考えることができるように、板書やワ

A: 「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の

<p>洋紙よりもせんいが長かったり、おだやかなかんきょうで作られて成分が変化しにくかったりするからです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和紙のよさは、洋紙とくらべてやぶれにくく、長もちすることです。そのため、1300年前の正倉院の文書が残っていたり、世界の博物館や美術館で絵画や手紙の修復に使われたりしています。</li> </ul> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<p>ワークシートに書かれていることを基に、「根拠」や「理由」の内容を確認させる。</p> <p>C： 「根拠」の語や文の中から、学習過程5(1)で確認した和紙のよさ（直線を引いた箇所）を選ばせ、その語や文を使って「意見」を書かせる。</p> <p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の意見を聞いて、全員が自分の考えをもったり、自分の考えを友達と比較し、深めたりすることができるように、全体交流をする。</li> </ul> <p><b>個人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを明確にしたり、深めたりすることができるように、全体交流での友達の意見を参考にして、再考させる。</li> </ul> <p>C： 自分の考えをもつために、全体交流での友達の意見の中で、自分の考えと似ているものを選ばせ、その文を参考にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返ることができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを、発表させる。</li> <li>○ 次時の学習を確かめることができるように、単元計画表を示す。</li> </ul>	<p>「根拠」「理由」「意見」を使いながら、和紙のよさについて、書いている。さらに、「理由」に書いた自分の解釈を取り入れながら、「意見」を書いている。</p> <p>B： 「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、和紙のよさについて、書いている。 (ワークシート)</p>
---	---	---

世界にほこる和紙④  
めあて

「中1」を読み、「考え名人3点セット」を使って、  
六年生に伝えたいことを考えよう。

何について考えているかを、児童が確認しやすいように、板書とワークシート  
の形式を統一する。

考え名人3点セット

根拠(どこから)

教科書の「中1」を拡大したものを黒板に貼る。  
余白部分に、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で書き表させる。  
児童が選んだ語や文に線を引かせ  
る。「よさ」に直線)

理由(どうして)

おばあちゃんの家  
のしよじは、和紙  
でできていますと聞  
いた。しかも、しよ  
うじの紙は長もちし  
ないから、和紙は長  
もちすると思うか  
ら。  
和紙でちぎり絵を  
したとき、洋紙より  
もやぶれにくいとじ  
た。だから、和紙や  
ぶれにくいと思うか  
ら。  
布は、せいのち  
がいで、ポロシャツ  
みたり、きびやすか  
つたり、のびにくか  
うたりして、とくち  
ょうがちがう。だか  
ら、紙もせいのちが  
いがいとくちようが  
ちがうと思うから。

意見  
(伝えたい)

六年生に伝えたい和紙のよさは、

・和紙のよさは、(洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちすること)です。

それは、(和紙は洋紙よりもせんいが長かったり、おだやかなかんきょうで作られて成分が変化しにくかったりする)からです。

そのため、(千三百年前の正倉院の文書が残っていたり、世界の博物館や美術館で絵画や手紙の修復に使われたりしています)。

学習過程5(3)で「意見」を書くことが出来るように、( )の中を考えさせる。

〈黑板横〉

毎時間の冒頭部分で確かめさせる。

☆和紙のみりよくについて、六年生に伝えよう。

伝えるポイント

① 六年生に伝える

② みりよく

「よさ」  
(洋紙とくらべて)

「使い方」  
(どこから  
のよさか)

〈単元計画図〉

世界にほこる和紙

六年生に伝えたい和紙のみりよくについて考える。

「世界にほこる和紙」を読んで、「初め」「中」「終わり」に分ける。

「初め」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

「中1」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

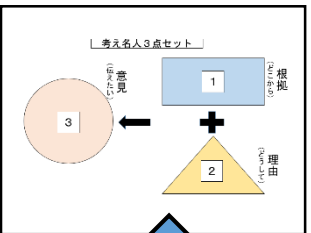
「中2」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

「終わり」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

「世界にほこる和紙」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

8 しょうかい文を書く。  
9 書いたしょうかい文を、六年生に伝える。  
学習のふり返りをする。

〈テレビ〉



学習過程1で、「考え名人3点セット」について想起するために示す。

〈第5時〉

(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「中2」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「中2」の中心となる語や文を見付け、短く文にまとめることができる。	「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、和紙の使い方について、書いている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、第1時に考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【伝えるポイント】</p> <p>① 6年生に伝える。</p> <p>② みりよく <b>よさ</b> (洋紙と比べて) <b>使い方</b> (いつから、何に、どのように)</p> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を示し、本時の学習の位置付けやめあてについて確認させる。</li> </ul>	
<p>「中2」を読み、「考え名人3点セット」を使って、6年生に伝えたいことを考えよう。</p>		
<p>3 「世界にほこる和紙」の「中2」を読む。</p> <p>(1) 教師の範読を聞く。</p> <p>(2) 個人で音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自力で音読ができるようにするため、読めない漢字に印を付けさせる。</li> <li>○ 文章中の語や文について、理解できているかを自覚できるように、語や文の理解が曖昧な箇所に印を付けさせる。</li> <li>○ 「中2」の内容の大体を捉えることができるように、個人で音読させる。</li> </ul>	



<p>4 「中[2]」に書かれている内容を読み取る。</p> <p>(1) 分からない語や文について、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さかんに</li> <li>・ 風合い</li> <li>・ 短歌</li> </ul> <p>(2) 「中[2]」に書かれている内容を確認する。 (個人→全体)</p> <p><b>第7段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヨーロッパの国々 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔…人の手で紙が作られていた</li> <li>・ 今…紙を作る場所は、一か国に、一、二か所ぐらい</li> </ul> </li> <li>○ 日本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の手で和紙を作っている所が、今も、二百か所ある。</li> <li>・ 自分の気持ちを表す方法の一つとして、和紙を選んで使ってきた。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>第8段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平安時代の短歌や、現在でも手紙を書くための便せんに、和紙が使われている。</li> <li>・ 受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、和紙を選ぶ。</li> </ul> <p><b>第9段落</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者は、和紙の名刺やお年玉の袋を使っている。</li> <li>・ 相手との出会いを大切にす気持ちや、より喜んでもらいたいという思いから、和紙を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 語や文を理解することができるように、学習過程3(1)で印を付けた語や文を挙げさせ、それについて、説明することができる児童に発表させたり、教師が補足したりする。</li> </ul> <p><b>個人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容を理解することができるかを自覚することができるよう、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で表現させる。</li> </ul> <p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「中[2]」に書かれている内容を正確に理解することができるように、全体で確認させる。</li> <li>○ 6年生に伝える和紙の魅力を「使い方」に焦点化して考えることができるように、「中[2]」には、「使い方」が書かれていることを確認させる。</li> </ul>	
--	---	--

5 6年生に伝えたい和紙の  
魅力(使い方)について、  
「考え名人3点セット」を  
使って、「根拠」「理由」  
「意見」を考える。

(1) 「根拠」を考える。

(個人→全体)

- ・ 自分の気持ちを表す方法の一つとして、和紙を選んで使ってきた。
- ・ 平安時代、短歌を書くときには、美しくかざられたきれいな和紙が使われていた。
- ・ 手紙を書くための便せんにも、和紙でできたものがある。
- ・ 受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、和紙を選ぶ。
- ・ 自分のことをしょうかいするめいしにも、和紙が使われている。
- ・ わたした相手との出会いを大切にしている気持ちを表している。
- ・ お年玉をあげるときにも、和紙のふくろを使う。
- ・ よりよろこんでもらいたいという思いから、ぬくもりのある和紙を選ぶ。

(2) 和紙の使い方について、(1)の「根拠」と、自分の知っていることを結び付け、「理由」を考える。

(個人→全体→個人→全体)

- ・ 絵手紙クラブで作った、和紙を使った作品をお母さんにあげたら、「すてきだね」と喜んでもらった。だから

**個人**

- 文章中から、「使い方」について書かれている箇所を見付けることができるように、学習過程1で確認した「伝えるポイント」を基に、「いつから」「何に」「どのように」使われているのかに着目して文章を読ませる。
- 本文中に書かれている「使い方」が視覚的に分かるように、「使い方」に関する内容には波線を引かせる。

**全体**

- 自分の考えを振り返ったり、新たな視点をもったりすることができるよう、全体交流をさせ、クラス全体で考えを共有する。
- 友達の考えを書いたり、自分の考えを修正したりする際には、自分の考えの変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。

**個人**

- 文章に書かれている内容を、自分のこととして実感的に理解するために、根拠を基に、自分の既有知識と生活経験と結び付けて考えさせる。

ら、相手の出合いを大切にしたいときや、もっと喜んでもらいたいときに、和紙を使うのは、いいことだな、と思うから。

- 先生に見せてもらった和紙には、いろいろな色や模様のもがあって、和紙ってきれいだな、と思った。だから、相手の好きな色や飾りの和紙に手紙を書いたら、相手も喜んでくれるんじゃないかな、と思うから。
- 和紙の実物を触ってみると、普段使っているノート（洋紙）に比べて、温かい感じがした。だから、ぬくもりのある和紙で作られた袋でお年玉をもらったら、確かに、もっと嬉しい気持ちになるだろうな、と思ったから。
- 図工でメッセージカードを作るとき、画用紙の色や形、しかけを工夫した。だから、和紙を選んで、自分の気持ちを伝えるのもいいな、と思うから。

(3) 「意見」を考える。

(個人→全体)

- 和紙は、自分の気持ちを表す方法の一つとして、使われてきました。例えば、平安時代には、短歌を書くときにきれいな和紙が使われ、現在でも、手紙を書くときに、和紙の便せんが使われています。このように、受け取る相手や伝えたい気

**全体**

- 「根拠」と自分の知っていることを結び付けた「理由」を、初めて考えるため、全員が自分の考えをもつことができるように、児童に発表させる。その上で、その意見を参考にし、再考させる。

**個人**

- 自分の考えを明確にしたり、深めたりすることができるように、全体交流での友達の意見を参考にし、再考させ、ワークシートに記述させる。
- C： 自分の考えをもつために、和紙の実物を触らせたり、和紙で作られた便せんを見せたりして、感じたことを基に考えさせる。

**全体**

- 自分の考えを振り返ったり、自分の考えを友達と比較し、深めたりすることができるよう、ワークシートに記述した「理由」を発表させる。

**個人**

- 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の使い方について、伝えたいことを考えることができるように、板書やワークシートに書かれていることを基に、「根拠」や「理由」の内容を確認させる。
- C： 「根拠」の語や文の中から、学習過程5(1)で確認した和紙の使い方（波線を引いた箇所）を選ばせ、その語や文を使って「意見」を書かせる。

A： 「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、和紙の使い方について、書いている。さらに、「理由」に書いた自分の解釈を取り

<p>持ちに合わせて、和紙を選んで使うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和紙は、自分の気持ちを表す方法の一つとして、使われてきました。例えば、自分のことを紹介する名刺や、お年玉袋にも使われています。わたしたち相手との出会いを大切にする気持ちや、よりよるこんでもらいたいという思いから、和紙を選んで使うことができます。</li> </ul> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の意見を聞いて、自分の考えを友達と比較し、深めることができるように、ワークシートに記述した「意見」を発表させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返ることができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを、発表させる。</li> <li>○ 次時の学習を確かめることができるように、単元計画表を示す。</li> </ul>	<p>入れながら、「意見」を書いている。</p> <p>B： 「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、和紙の使い方について、書いている。 (ワークシート)</p>
--	--	---

世界にほこる和紙⑤

めあて

「中2」を読み、「考え名人3点セット」を使って、  
六年生に伝えたいことを考えよう。

何について考えているかを、児童が確認しやすいように、板書とワークシート  
の形式を統一する。

考え名人3点セット

根拠(どこから)

教科書の「中2」を拡大したものを黒板に貼る。  
余白部分に、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で書き表させる。  
児童が選んだ語や文に線を引かせる。「使い方」に波線)

理由(どうして)

絵手紙クラブで作った、和紙を使った作品を母さんにあげたら、「すてきだね」とよろこんでもらえた。だから、相手の出合いを大切にしたいときや、もつとよろこんでほしいときに、和紙を使うのは、いいことだな、と思ったから。  
先生に見せてもらった和紙には、いろいろな色やもようのものがあったので、和紙ってきれいな、と思った。だから、相手の好きな色やかざりの和紙に手紙を書いたら、相手もよろこんでくれるんじゃないかな、と思うから。  
和紙の実物をさわってみると、ふだん使っているノートにくらべて、温かい感じがした。だから、ぬくもりのある和紙で作られたふくろでお年玉をもらったら、たしかにもつとうれしい気持ちになるだろうな、と思ったから。

意見(伝えたい)

六年生に伝えたい和紙の使い方

和紙は、自分の気持ちを表す方法の一つとして、使われてきました。  
例えば、平安時代には、短歌を書くときにきれいな和紙が使われ、現在でも、手紙を書くときに、和紙の便せんが使われています。このように、受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、和紙を選んで使うことができます。

和紙は、自分の気持ちを表す方法の一つとして、使われてきました。  
例えば、自分のことをしようかいするめいしや、お年玉ぶくろにも使われています。わたしたち相手との出合いを大切にしたいから、和紙を選んで使うことができます。

〈黒板横〉

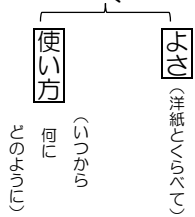
毎時間の冒頭部分で確かめさせる。

☆ 和紙のみりよくについて、六年生に伝えよう。

伝えるポイント

① 六年生に伝える

② みりよく



〈単元計画図〉

世界にほこる和紙

① 六年生に伝えたい和紙のみりよくについて考える。

② 「世界にほこる和紙」を読んで、「初め」「中」「終わり」に分ける。

③ 「初め」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

④ 「中」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑤ 「中2」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑥ 「終わり」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑦ 「世界にほこる和紙」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑧ しよつかい文を書く。

⑨ 書いたしよつかい文を、六年生に伝える。学習の振り返りする。

〈第6時〉

(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「終わり」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の「終わり」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。	「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、書いている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、第1時に考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【伝えるポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 6年生に伝える。</li> <li>② みりよく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ</span> (洋紙と比べて)</li> <li style="padding-left: 20px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">使い方</span> (いつから、何に、どのように)</li> </ul> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を示し、本時の学習の位置付けやめあてについて確認させる。</li> </ul>	
<p>「終わり」を読み、「考え名人3点セット」を使って、6年生に伝えたいことを考えよう。</p>		
3 「世界にほこる和紙」の「終わり」の教師の範読を聞く。 (1) 教師の範読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「考え名人3点セット」を使って、6年生に伝えたいことを自力で考えることができるように、本時の学習では、和紙の魅力を「よさ」または、「使い方」のどちらかを選び、自分が選んだ和紙の魅力について考えることを説明する。</li> <li>○ 自力で音読ができるようにするため、読めない漢字に印を付けさせる。</li> <li>○ 文章中の語や文について、理解できているかを自覚できるように、語や文の理解が曖昧な箇所に印を付けさせる。</li> </ul>	

<p>(2) 個人で音読する。</p> <p>4 6年生に伝えたい和紙の魅力について、「考え名人3点セット」を使って、「根拠」「理由」「意見」を考える。</p> <p>(1) 「根拠」を考える。 (個人→全体)</p> <p><b>よさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和紙のもつよさによって、長い間、和紙は作られ、様々なところで使われ続けてきた。</li> <li>和紙を作るぎじゅつは、世界にはほこれる無形文化遺産になった。</li> </ul> <p><b>使い方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使う紙を選ぶわたしたちの気持ちによって、長い間、和紙は作られ、さまざまところで使われ続けてきた。</li> <li>美しくかざりたいと思ったり、相手によるこんでもらいたいと考えたりして、紙を選ぶことは、とてもすてきなこと。</li> </ul>	<p>○ 「終わり」の内容の大体を捉えることができるように、個人で音読させる。</p> <p><b>個人</b> (本時では、「よさ」と「使い方」の両方を考えさせる。)</p> <p>○ 内容を理解することができているかを自覚することができるよう、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で表現させる。</p> <p>○ 文章中から、「よさ」について書かれている箇所を見付けることができるように、学習過程1で確認した「伝えるポイント」を基に、「よさ」とは、「洋紙と比べたよさ」であることを確認させる。</p> <p>○ 文章中から、「使い方」について書かれている箇所を見付けることができるように、学習過程1で確認した「伝えるポイント」を基に、「いつから」「何に」「どのように」使われているのかに着目して文章を読ませる。</p> <p>○ 本文中に書かれている「よさ」「使い方」が視覚的に分かるように、「よさ」に関する内容に直線、「使い方」に関する内容には波線を引かせる。</p> <p>C: 自分の考えをもつために、「初め」の段落で記述したワークシート(第3時)を基に、「よさ」と「使い方」を振り返らせ、「終わり」と内容が類似している箇所がないか見付けさせる。</p> <p><b>全体</b></p> <p>○ 友達の考えを書いたり、自分の考えを修正したりする際には、自分の考えの変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。</p> <p>○ 6年生に伝える和紙の魅力を「よさ」または、「使い方」のどちらかに焦点化して考えることができるように、まず、ワークシートの「6年生に伝える和紙のみりよく(よさ・使い方)」のうち「よさ」または、「使い方」のどちらかを選ばせ、自分が選んだ方に丸を付けさせる。</p>	
--	--	--

(2) (1)の「根拠」と、自分の知っていることを結び付け、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）を伝えたい「理由」を考える。

(個人→全体)

#### よさ

- ・ 中<sup>1</sup>を読んだときに、和紙のよさを実感できる事例の中に、約1300年前の文書が正倉院に残っているということがあった。このようなやぶれにくく、長持ちするというよさがあるから、長い間、和紙は使われてきたと分かったから。
- ・ 中<sup>1</sup>を読んだときに、友達が和紙をやぶってみたら、洋紙に比べてなかなかやぶれなかったと聞いた。そのとき、それだけやぶれにくかったら、長い間、使われていくだろうなあ、と思ったから。

#### 使い方

- ・ 中<sup>2</sup>を読んだときに、受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、平安時代には短歌を書くときに使われていたり、今でも、便せん、名刺、お年玉袋に和紙が使われていたりすると知った。このことから、使う紙を選ぶ気持ちによって、さまざまところで和紙が使われてきたのは、本当なんだなあ、と思ったから。
- ・ 中<sup>2</sup>を読んだときに、友達が和紙で絵手紙を書いて、それをお母さんにあげたら、よろこんでもらえたと聞

#### 個人

- 文章に書かれている内容を、自分のこととして実感を伴った理解になるように、根拠を基に、自分の既有知識と生活経験と結び付けて考えさせる。
- C： 自分の考えをもつために、「よさ」を選んだ児童には、「中<sup>1</sup>」の段落、また、「使い方」を選んだ児童には、「中<sup>2</sup>」の段落で記述したワークシート（第4時、第5時）を基に、学習したことを振り返らせる。その内容と、「終わり」に書かれていることで関連付けられる箇所がないかを見付けさせる。

#### 全体

- 自分が「よさ」または、「使い方」のどちらについて考えたかを明確にすることができるように、「よさ」を考えた児童にはピンクの付箋、「使い方」を考えた児童には水色の付箋を机の上に貼らせて、確認させる。
- 自分の考えを振り返ったり、新たな視点をもったりすることができるよう、ワークシートに記述した「理由」を発表させる。



いた。そのとき、相手に喜んでもらいたいと考えて紙を選ぶのは、すてきなことだと、わたしも思ったから。

- (3) 「意見」を考える。  
(個人→全体)

**よさ**

- 和紙には、やぶれにくく、長もちするというよさがあるので、長い間、和紙は作られ、様々なところで使われ続けてきました。そして、和紙を作るぎじゅつは、世界にほこれる無形文化遺産になりました。

**使い方**

- 相手や伝えたい気持ちによって、使う紙を選ぶことができます。この紙を選ぶ気持ちがあるから、長い間、和紙は作られ、さまざまところで使われ続けてきました。いつも同じものを使うのではなく、美しくかざりたいと思ったり、相手によるこんでもらいたいと考えたりして、紙を選ぶことは、とてもすてきなことです。

- 5 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。

**個人**

- 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力について、自分の考えをもつために、板書やワークシートに書かれていることを基に、「根拠」や「理由」の内容を確認させる。
- C: 「根拠」の語や文の中から、学習過程4(1)で確認した和紙の魅力(直線または、波線を引いた箇所)を選ばせ、その語や文を使って「意見」を書かせる。

**全体**

- 友達の意見を聞いて、自分の考えを友達と比較し、深めることができるように、ワークシートに記述した「意見」を発表させる。

- 本時の学習を振り返ることができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを、発表させる。
- 次時の学習を確かめることができるように、単元計画表を示す。

A: 「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、自分が選んだ和紙の魅力(よさ、または、使い方)について、書いている。さらに、「理由」に書いた自分の解釈を取り入れながら、「意見」を書いている。

B: 「6年生に伝える」という目的を意識し、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、自分が選んだ和紙の魅力(よさ、または、使い方)について、書いている。  
(ワークシート)

世界にほこる和紙⑥  
 めあて  
 「終わり」を読み、「考え名人3点セット」を使って、六年生に伝えたいことを考えよう。

何について考えているかを、児童が確認しやすいように、板書とワークシート<sup>①</sup>の形式を統一する。

根拠(どこから)

教科書の「終わり」を拡大したものを黒板に貼る。  
 余白部分に、文章から読み取ったことを、キーワードや短い文で書き表させる。  
 児童が選んだ語や文に線を引かせる。「よさ」は直線、「使い方」は波線

意見(伝えたい)

よさ  
 ・和紙には、やぶれにくく、長もちするというよさがあるので、長い間、和紙は作られ、様々なところで使われ続けてきました。そして、和紙を作るきじゅつは、世界にほこれる無形文化遺産になりました。

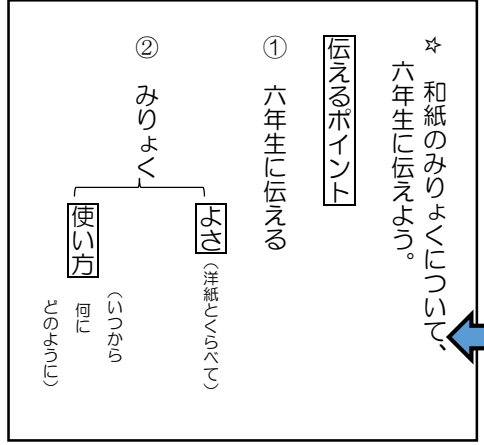
使い方  
 ・相手や伝えたい気持ちによって、使う紙を選ぶことができます。この紙を選ぶ気持ちがあるから、長い間、和紙は作られ、さまざまなお店で使われ続けてきました。いつも同じものを使うのではなく、美しくかざりたいと思ったり、相手によるこんでもらいたいと考えたりして、紙を選ぶことは、とてもすてきなことです。

理由(どうして)

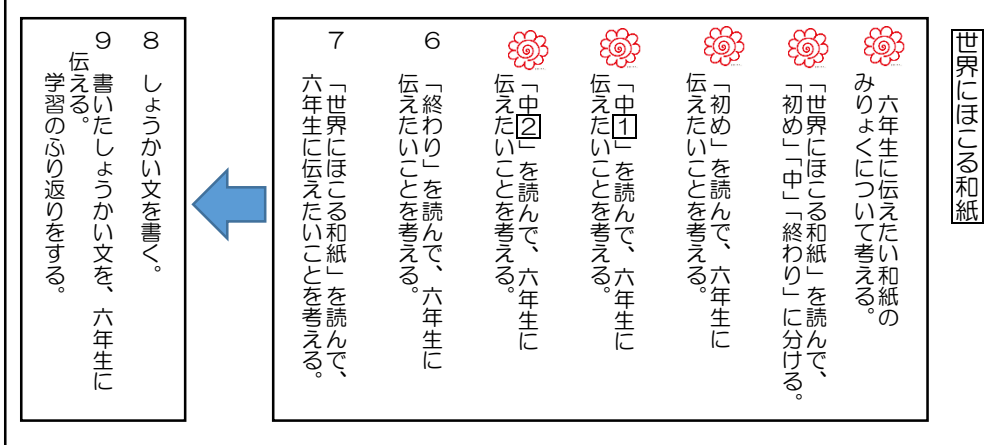
よさ  
 ・中1を読んだときに、和紙のよさを実感できる事例の中に、約千三百年前の文書が正倉院にのこっているということがあった。このようなやぶれにくく、長もちするというよさがあるから、長い間、和紙は使われてきたと分かったから。  
 ・中1を読んだときに、友達か和紙をやぶってみたら、洋紙に比べてなかなかやぶれなかつたと聞いた。そのとき、それだけやぶれにくかつたら、長い間、使われていくだろうなあ、と思ったから。

使い方  
 ・中2を読んだときに、受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、平安時代には短歌を書くときに使われていたり、今でも、便せん、めいし、お年玉ぶくろに和紙が使われていたりすると知った。このことから、使う紙を選ぶ気持ちによって、さまざまなお店で使われてきたのは、本当なんだなあ、と思ったから。  
 ・中2を読んだときに、友達か和紙で絵手紙を書いて、それをお母さんにあげたら、よろこんでお母さんにも聞いた。そのとき、相手によるこんでもらいたいと考えて紙を選ぶのは、すてきなことだと、わたしも思ったから。

〈黑板横〉  
 毎時間の冒頭部分で確かめさせる。



〈単元計画図〉



板書の「よさ」「使い方」の短冊の色と、児童の机上に貼る付箋の色を統一する。  
 「よさ」はピンク、「使い方」は水色

〈第7時〉

(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、「世界にほこる和紙」の中心となる語や文を見付け、短い文にまとめることができる。	「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、文章全体から、自分の伝えたいことを選んで、書いている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、第1時に考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【伝えるポイント】</p> <p>① 6年生に伝える。</p> <p>② みりよく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ</span> (洋紙と比べて)</p> <p style="margin-left: 40px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">使い方</span> (いつから、何に、どのように)</p> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を示し、本時の学習の位置付けやめあてについて確認させる。</li> </ul>	
<p>「世界にほこる和紙」を読み、「考え名人3点セット」を使って、6年生に伝えたいことを考えよう。</p>		
<p>3 6年生に伝えたい和紙の魅力について、「考え名人3点セット」を使って、「根拠」「理由」「意見」を考える。</p> <p>(1) 「根拠」を考える。 (個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT機器（実物投影機）を活用して、ワークシートを提示することで、ワークシートの記述の仕方を確認させる。</li> <li>○ 6年生に伝えたい和紙の魅力を「よさ」または、「使い方」のどちらかに焦点化して考えることができるように、まず、「よさ」と「使い方」のどちらかを選ばせる。さらに、自分の選んだ和紙の魅力は、「初め」「中<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1</span>」「中<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2</span>」「終わり」のどの段落に書かれているかを確認させる。</li> </ul>	

<p>(2) (1)の「根拠」と、自分の知っていることを結び付け、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）を伝えたい「理由」を考える。 （個人）</p> <p>(3) 「意見」を考える。 （個人→全体）</p>	<p>○ 「根拠」（文章中に書かれていること）を基に、和紙の魅力について伝えたいことを考えることができるように、自分が選んだ魅力が書かれている段落を一つに絞り、その段落の中から「根拠」となる語や文を選ばせる。（ただし、段落を二つ以上組み合わせてもよいこととする。）</p> <p>C： 板書を基に、第3時から第6時の学習を振り返らせ、まず、自分が選んだ和紙の魅力の内容が書かれているのは、どの段落なのかを一緒に確認し、「<u>よさ</u>」または、「<u>使い方</u>」の中から、伝えたいことを選ばせる。</p> <p>○ 文章に書かれている内容を、自分のこととして実感を持った理解になるように、根拠を基に、自分の既有知識と生活経験と結び付けて考えさせる。</p> <p>C： 第3時から第6時のワークシートに記述した「理由」を振り返らせ、その記述を参考にし、再思考させる。</p> <p><b>個人</b></p> <p>○ 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力について、自分の考えをもつために、板書やワークシートに書かれていることを基に、「根拠」や「理由」の内容を確認させる。</p> <p>C： 「根拠」の語や文の中から、学習過程3(1)で選んだ和紙の魅力の「根拠」となる語や文を使って「意見」を書かせる。</p> <p><b>全体</b></p> <p>○ 友達の見解を聞いて、自分の考えと友達の見解の共通点や相違点を比較し、考えを深めることができるように、「意見」を発表させる際には、記述したワークシートを実物投影機に映す。</p>	<p>A： 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、「考え名人3点セット」の「根拠」「理由」「意見」を使いながら、文章全体から、自分の伝えたいことを選んで、書いている。さらに、「理由」に書いた自分の解釈を取り入れて、「意見」を書いている。</p> <p>B： 「6年生に伝える」という目的を意識し、和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、「考え名人3点セット」の</p>
--	--	--

<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返ることができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを、発表させる。</li> <li>○ 次時の学習を確かめることができるように、単元計画表を示す。</li> </ul>	<p>「根拠」「理由」「意見」を使いながら、文章全体から、自分の伝えたいことを選んで、書いている。(ワークシート)</p>
---------------------------------	---	---

世界にほこる和紙⑦

めあて

「世界にほこる和紙」を読んで、「考え名人3点セット」を使って、六年生に伝えたいことを考えよう。

これまでの学習を想起することができよう。第三時から第六時に黒板に貼っていた教科書の本文を拡大したもの、四枚貼る。

まとめ

児童の言葉を引き出し、それをまとめの言葉とする。

自分が選んだ和紙のみりよくについて、「考え名人3点セット」を使って、六年生に伝えたいことを考えることができた。

〈黒板横〉

毎時間の冒頭部分で確かめさせる。

☆ 和紙のみりよくについて六年生に伝えよう。

伝えるポイント

① 六年生に伝える

② みりよく

使い方

（ごじかり  
何じ  
たがかり）

作り（和紙のたん）

〈単元計画図〉

世界にほこる和紙

① 六年生に伝えたい和紙のみりよくについて考える。

② 「世界にほこる和紙」を読んで、「初め」「中」「終わり」に分ける。

③ 「初め」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

④ 「中①」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑤ 「中②」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑥ 「終わり」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑦ 「世界にほこる和紙」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

⑧ しょうかい文を書く。

⑨ 書いたしょうかい文を、六年生に伝える。学習の振り返りをする。

〈テレビ〉

ICT機器（実物投影機）を活用して、ワークシートを提示することで、ワークシートの記述の仕方を確認させる。

〈第8時〉

(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、紹介文を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、紹介文を書くことができる。	「6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、文章中の語や文を使って、紹介文を書くことができている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む目的を意識できるように、第1時に考えた「伝えるポイント」の掲示を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【伝えるポイント】</b></p> <p>① 6年生に伝える。</p> <p>② みりよく <b>よさ</b> (洋紙と比べて) <b>使い方</b> (いつから、何に、どのように)</p> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を示し、本時の学習の位置付けやめあてについて確認させる。</li> </ul>	
<p>和紙のみりよくについて、6年生に伝えるしょうかい文を書こう。</p>		
3 和紙の魅力について、6年生に伝える紹介文を書く。 (1) 伝えたい和紙の魅力を、「よさ」と「使い方」から選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見通しをもって学習を進めることができるように、「紹介文を書く手順」を示す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【紹介文を書く手順】</b></p> <p>① 伝えたい和紙の魅力を、「よさ」と「使い方」から選ぶ。</p> <p>② 紹介文の構成について確かめる。</p> <p>③ 紹介文を書く。</p> <p>④ 友達と読み合う。</p> <p>⑤ 紹介文を見直す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が伝えたい和紙の魅力について、焦点化して紹介することができるように、ワークシートの6年生に伝えたい和紙の魅力をよさと使い方から選び、選んだ方の欄に丸を付けさせる。</li> </ul>	

<p>(2) 紹介文の構成について、確認する。</p>	<p>○ 紹介文の構成を確認することができるように、紹介文の「初め」「中」「終わり」に書く内容を黒板に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【初め】</b> ○ 何について紹介するか。</p> <p><b>【中】</b> ○ 和紙の魅力について ・ よさ ・ 使い方</p> <p><b>【終わり】</b> ○ 紹介のまとめ ○ 6年生に一言</p> </div>	
<p>(3) 紹介文を書く。</p>	<p>○ 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、紹介文を書くことができるように、学習過程1で確認した「伝えるポイント」を、再度確認させ、そのポイントを踏まえて紹介文を書かせる。</p> <p>C: 6年生に一番伝えたいことは何かを確認し、該当する段落を選ばせる。その後、和紙の魅力について書かれた語や文をまとめた「お助けシート」で必要な箇所を示す。</p>	
<p>(4) 友達と読み合う。</p>	<p>○ 自分が書いた紹介文を見直し、考えを明確にしたり、新たな視点をもったりすることができるように、ワークシートを交換して読み合わせる。その後、お互いの紹介文について意見を伝え合わせる。</p> <p>○ 紹介文を読み合う際には、「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、友達の紹介文を読むことができるように、二つの視点で読ませ、達成している項目について、ワークシートに丸を付けさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【二つの視点】</b> ○ 和紙の魅力について書けていたか。 ○ 和紙の魅力について、初めて知る6年生が分かるように、書けていたか。 ① 内容にずれがないか。 ② 身近な例を出しながら、紹介できているか。</p> </div>	
<p>(5) 紹介文を見直す。</p>	<p>○ 和紙の魅力について、6年生に、より伝わりやすい紹介文を書くことができるように、友達の見意見を参考にして、自分が書いた紹介文を見直し、再考させる。</p> <p>○ 修正や加筆する際には、自分の考えの</p>	<p>A: 「6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、</p>



<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	<p>変容を振り返ることができるようにするため、赤鉛筆で加筆させる。</p> <p>C： 友達の意見を一緒に確認し、それを基に、紹介文に加筆する語や文を何にしたいか話させ、記述させる。</p> <p>○ 再考した紹介文を振り返ることができるように、修正や加筆したこと、気付いたこと等を、ワークシートの「見直してみると」の欄に記述させる。</p> <p>○ 本時の学習を振り返ることができるように、板書やワークシートを基に、本時の学習で思ったことや考えたことを、発表させる。</p> <p>○ 次時の学習を確かめることができるように、単元計画表を示す。</p>	<p>使い方) について、文章中の語や文を使って、紹介文を書くことができています。さらに、文章中の語や文と、自分の既有知識や生活経験と結び付けた解釈を取り入れて書いている。</p> <p>B： 「6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方) について、文章中の語や文を使って、紹介文を書くことができています。 (ワークシート)</p>
---------------------------------	---	---

世界にほこる和紙⑧

めあて

和紙のみりよくについて、六年生に伝える  
しようかい文を書こう。

しようかい文を書く手順

- ① 伝えたい和紙のみりよくを選ぶ。
- ② しようかい文の構成をたしかめる。
- ③ しようかい文を書く。
- ④ 友達と読み合う。
- ⑤ しようかい文を見直す。

しようかい文の構成

【初め】

- 何についてしようかいするか

【中】

- 和紙のみりよくについて

よさ

使い方

【終わり】

- しようかいのまとめ
- 六年生に一言

児童の言葉を引き出し、それをまとめの言葉とする。

まとめ

自分が選んだ和紙のみりよくについて、  
六年生に伝えるしようかい文を書くことができた。

〈黒板横〉

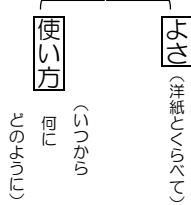
毎時間の冒頭部分  
で確かめさせる。

☆ 和紙のみりよくについて、  
六年生に伝えよう。

伝えるポイント

- ① 六年生に伝える

② みりよく



〈単元計画図〉

世界にほこる和紙

六年生に伝えたい和紙の  
みりよくについて考える。

「世界にほこる和紙」を読んで、  
「初め」「中」「終わり」に分ける。

「初め」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

「中①」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

「中②」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

「終わり」を読んで、六年生に  
伝えたいことを考える。

「世界にほこる和紙」を読んで、  
六年生に伝えたいことを考える。

8 しようかい文を書く。

9 書いたしようかい文を、六年生に  
伝える。  
学習の振り返りをする。

〈テレビ〉

ワークシートの記  
述の仕方を理解す  
ることができるよう  
に、実物投影機  
で、ワークシート  
を提示する。

〈第9時〉

(1) 本時の目標

- 「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、6年生に伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
主体的に学習に取り組む態度	「和紙の魅力について、6年生に伝える」という目的を意識して、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、6年生に伝えることができる。	「6年生に伝える」という目的を意識して、前時に書いた紹介文を基に、自分が選んだ和紙の魅力（よさ、または、使い方）について、伝えようとしている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を振り返ることができるように、第1時に考えた「伝えるポイント」を基にして、紹介文を書いたことを確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【伝えるポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 6年生に伝える。</li> <li>② みりよく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よさ</span> (洋紙と比べて)</li> <li style="padding-left: 20px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">使い方</span> (いつから、何に、どのように)</li> </ul> </div>	
2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元を通した学習になるように、単元計画表を示し、本時の学習が本単元の最終時になることやめあてについて確認させる。</li> </ul>	
和紙のみりよくについて、6年生に伝えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生に伝える心構えをもつことができるように、「発表名人」を示し、その内容を確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【発表名人】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手に届けたいという気持ちをもって、発表する。</li> <li>① 相手を見て</li> <li>② ゆっくりと</li> <li>③ 声の強弱に気を付けて</li> </ul> </div>	

<p>3 紹介文を読む練習をする。</p> <p>4 和紙の魅力について、6年生に伝える。</p> <p>【前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aグループ発表 (Bグループは、友達の発表を聞く。)</li> <li>・ 発表後、6年生に感想を書いてもらう。</li> </ul> <p>【後半】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Bグループ発表。 (Aグループは、友達の発表を聞く。)</li> <li>・ 発表後、6年生に感想を書いてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生に伝わるように発表できるように、「発表名人」を意識させて、練習をさせる。</li> <li>○ 発表する際には、自分が選んだ和紙の魅力について、6年生に伝えることができるように、前時に書いたワークシートを基に、発表させる。</li> <li>○ 発表を待つ際、6年生に伝える心構えをもったり (Bグループ)、自分の発表を振り返る視点をもったり (Aグループ) することができるように、友達の発表を聞かせる。</li> <li>○ 和紙の魅力について伝えることができたか、また、「発表名人」に沿って伝えることができたかを振り返ることができるように、発表についての感想を、6年生に書いてもらう。</li> </ul>	<p>A : 「6年生に伝える」という目的を意識して、前時に書いた紹介文を基に、自分が選んだ和紙の魅力 (よさ、または、使い方) について、「発表名人」に沿って、6年生に伝えようとしている。</p> <p>B : 「6年生に伝える」という目的を意識して、前時に書いた紹介文を基に、自分が選んだ和紙の魅力 (よさ、または、使い方) について、6年生に伝えようとしている。 (ワークシート・発表)</p>
<p>5 本時とこれまでの学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返ることができるように、6年生に書いてもらった感想を基に、本時の学習で思ったことや考えたことを、ワークシートに記述させる。</li> <li>○ これまでの学習を振り返ることができるように、単元計画表を示し、単元を通して学習してきたことを確認させ、これまでの学習で思ったことや考えたことを、ワークシートに記述させる。</li> </ul>	

世界にはこる和紙⑨

めあて

和紙のみりよくについて、六年生に伝えよう。

発表名人

- 相手にとどけたいという気持ちをもって、発表する。
- ① 相手を見て
- ② ゆっくりと
- ③ 声の強弱に気を付けて

まとめ

- ・ 六年生に伝わるように、和紙のみりよくについて、伝えることができた。
- ・ 六年生に伝えるために、初めて「考え名人3点セット」を使った。初めはむずかしかったけど、だんだん分かるようになって、伝えたいことをしようかい文にまとめて、伝えることができた。
- ・ 六年生に和紙のみりよくが伝わったと言ってもらえて、うれしかった。これからも、自分の意見を伝えるときには、「考え名人3点セット」の「根拠」と「理由」を組み合わせせて伝えていきたい。

児童の言葉を引き出して、まとめの言葉とする。

これまでの学習を振り返ることができるように、黒板横に掲示していた「伝えるポイント」「単元計画表」「考え名人3点セット」を示す。

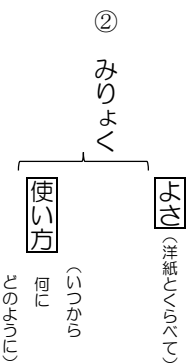
〈黒板横〉

☆ 和紙のみりよくについて、六年生に伝えよう。

伝えるポイント

- ① 六年生に伝える

- ② みりよく



〈単元計画図〉

世界にはこる和紙

- 🌸 六年生に伝えたい和紙のみりよくについて考える。
- 🌸 「世界にはこる和紙」を読んで、初め「中」「中」「終わり」に分ける。
- 🌸 「初め」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。
- 🌸 「中1」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。
- 🌸 「中2」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。
- 🌸 「終わり」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。
- 🌸 「世界にはこる和紙」を読んで、六年生に伝えたいことを考える。

🌸 しようかい文を書く。

🌸 書いたしようかい文を、六年生に伝える。  
学習の振り返りをする。

〈テレビ〉

